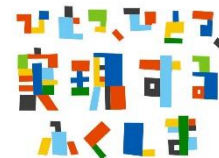


主要な農作物の生育情報



令和6年度 第4号

(令和6年7月10日現在)

福島県農林水産部農業振興課

【作物】

1 水稲（農業総合センターの作柄解析試験における7月2日現在の生育概況）

全ての調査場所でコシヒカリ、ひとめぼれともに、草丈が平年並から長く、茎数が多く（本部コシヒカリを除く）、主稈葉数が平年並から0.3葉多く、葉色が平年並から淡くなっています。

表1 農業総合センターにおける水稲の生育状況

調査場所	品 種	移植期 (月. 日)	7月2日調査			
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (枚)	葉色 (SPAD502 値)
本 部	コシヒカリ	5.15	52.3 (100%)	664 (97%)	9.7 (-0.1)	35.1(-2.6)
	ひとめぼれ	5.15	52.6 (106%)	759 (116%)	9.8 (± 0)	38.0(-1.9)
会津地域 研 究 所	コシヒカリ	5.21	62.5 (107%)	727 (103%)	10.4 (+0.1)	40.7(+0.6)
	ひとめぼれ	5.21	59.0 (106%)	788 (109%)	10.3 (-0.1)	43.1(+0.5)
浜 地 域 研 究 所	コシヒカリ	5.10	65.7 (109%)	859 (118%)	10.2 (+0.3)	34.4(-3.4)
	ひとめぼれ	5.10	65.6 (109%)	928 (119%)	10.3 (+0.3)	38.6(-2.4)

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注2) 括弧内の数字は、会津地域研のコシヒカリでは前4年平均（2019～2021, 2023年）、それ以外では前5年平均（2019～2023年）との比較

2 大豆（農業総合センターの作柄解析試験における生育概況）

本部（郡山市）の標播では乾燥による出芽のばらつきがありましたが、それ以外の出芽は概ね良好です。

表2 農業総合センターにおける大豆の生育状況

調査場所	播種 時期	品 種	播種期 (月. 日)	出芽期 (月. 日)	出芽日数 (日)
本 部	標播	タチナガハ	6. 6 (+5)	6.16 (+4)	10 (-1)
		里のほほえみ	6. 6 (+5)	6.16 (+5)	10 (±0)
	晩播	タチナガハ	6.20 (+1)	6.27 (-1)	7 (-2)
		里のほほえみ	6.20 (+1)	6.27 (±0)	7 (±0)
会津地域 研 究 所	標播	あやこがね	5.31 (-1)	6. 8 (-1)	8 (±0)
		里のほほえみ	5.31 (-1)	6. 8 (-2)	8 (-1)
	晩播	あやこがね	6.20 (±0)	6.27 (±0)	7 (±0)
		里のほほえみ	6.20 (±0)	6.27 (±0)	7 (±0)
浜 地 域 研 究 所	標播	タチナガハ	6. 6 (-4)	6.12 (-5)	6 (-1)
		里のほほえみ	6. 6 (-4)	6.12 (-5)	6 (-1)
	晩播	タチナガハ	6.21 (-3)	6.27 (-3)	6 (±0)
		里のほほえみ	6.21 (-3)	6.27 (-3)	6 (±0)

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注2) 括弧内の数字は、前5年平均（2019～2023年）との比較

【野菜】

1 夏秋きゅうり

県北地方の4月下旬定植の雨よけ栽培は、平年並の5月下旬から収穫が始まり、現在は、1次側枝中段が収穫中となっています。県北・県中地方の5月下旬定植の露地栽培は、定植後に節間が短くなったり、6月中旬に芯焼けが発生する等、乾燥の影響を受けましたが、平年並の6月下旬から収穫が始まっています。雨よけ栽培・露地栽培ともに、側枝の発生は良好であり、1週間程度生育が早まっています。

病害は、朝晩の冷え込みにより黒星病や斑点細菌病が見られています。害虫は、アザミウマ類やアブラムシ類やハダニ類が平年より多く発生しています。

2 夏秋トマト

県南地方の4月定植の作型では、6月上旬から収穫が始まり、南会津地方の5月下旬定植の作型では、7月中旬から収穫開始を見込んでいます。高温で経過していることから、徒長傾向にあるほ場もありますが、順調に生育しており、平年より1週間程度生育が進んでいます。

病害虫の発生は平年より早く、青枯病やハモグリバエ類、アザミウマ類等が見られています。

3 さやいんげん

県中地方、会津地方の5月中旬定植の露地栽培では、生育が平年より早まり、6月下旬から収穫が始まっています。アザミウマ類やアブラムシ類、ハダニ類が散見されています。

4 夏秋ピーマン

県中地方のトンネル栽培では、平年並の6月中旬から収穫が始まっています。高温で経過していることから、草丈や側枝の発生等の生育は前進傾向にあり、整枝の遅れたほ場では尻腐果が多く見られています。害虫はタバコガ類が平年より早く発生しています。

【果樹】（福島県農業総合センター果樹研究所における7月1日現在の生育概況）

1 もも

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が60.7mm（平年比125%）、側径が63.5mm（平年比134%）、「ゆうぞら」は縦径が54.9mm（平年比115%）、側径が48.6mm（平年比116%）と両品種とも平年より大きい状況です。満開後日数で比較すると、両品種とも平年より大きくなっています。

気温に基づくDVRモデルによる「あかつき」の収穫期予測は、気象庁の2週間気温予報を反映した2週間予測では、収穫開始日は7月20日ごろで平年より11日早く、収穫盛期日は7月23日で平年より12日早い見込みです。

2 なし

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が38.4mm（平年比114%）、横径が47.3mm（平年比118%）、「豊水」は縦径が44.0mm（平年比125%）、横径が49.0mm（平年比129%）と両品種とも平年より大きい状況です。満開後日数で比較すると、「幸水」は平年並、「豊水」は平年より大きくなっています。

気温と降水量に基づくDVRモデルによる「幸水」の発育予測では、収穫盛期は8月21日ごろで平年より8日早い見込みです。

3 りんご

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が56.4mm（平年比110%）、横径が62.5mm（平年比109%）、「ふじ」は縦径が49.2mm（平年比108%）、横径が52.0mm（平年比108%）と両品種とも平年よりやや大きい状況です。満開後日数で比較すると、両品種とも平年並となっています。

4 病害虫の発生

果樹カメムシ類やナシヒメシンクイの発生が平年に比べて多い地域があります。モモせん孔細菌病、ナシ黒星病の発生が一部で確認されるため、梅雨期に向けて果樹情報等を発行して注意を喚起し、現地における耕種的防除や防除対策の徹底を図っています。

【花 き】

1 コギク

8月咲きの生育は、草丈が平年並からやや低く、葉数が平年並です。また、6月下旬頃から発蕾が確認されています。一部地域では発蕾が平年よりやや早い様子が見られています。

9月咲きは、草丈、葉数が概ね平年並、一部地域では草丈が前年よりやや低くなっています。

病害虫では、アブラムシ類、アザミウマ類、カメムシ類の発生が続いています。また、タバコガ類の発生による被害も見られています。

2 リンドウ

早生種の生育は、草丈が平年よりやや低く、葉数が平年並からやや少ない傾向です。草丈の低さは、6月の小雨が影響していると考えられます。また、多くの地域で発蕾期に達しており、平年並の生育速度と考えられます。

中晩生種の生育は、草丈、葉数ともに概ね平年並です。多くの地域で上位側芽発生期に達しており、平年並の生育速度と考えられます。

病害は、葉枯病、黒斑病、褐斑病の発生が続いています。特に、葉枯病は下位葉から中位葉で、黒斑病は上位葉まで、それぞれ発生しています。また、害虫は、リンドウホソハマキ、ハダニ類、アザミウマ類の発生が続いています。

【飼料作物】

1 牧草

牧草は、1番草において5月中旬から収穫作業が行われ、収量は例年並、品質は良好な状態です。2番草の生育は再生期から出穂期にあり、順調に生育しています。

2 飼料用トウモロコシ

飼料用トウモロコシは、順調に生育しています。

<< 高温に関する天候情報が発表されています >>

◎ 令和6年度農業技術情報第4号（令和6年7月10日発行）

「高温条件下における農作物等の技術対策」

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/642377.pdf>

を活用し、適切に対応しましょう。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ）

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> 等を活用し、適切に対応しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7344

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#seiiku>